

# 近世日本観相書版本目録

青山英正\*

## 《解題》

はじめに

本稿は、江戸時代に刊行された相書すなわち観相学（人相学）関連書籍のリストである。筆者は以前、「古典知としての近世観相学——この不思議なる身体の解釈学」『アジア遊学』一五五号（勉誠出版、二〇一二年七月）において、観相学を近世文学・文化研究の対象とすることの意義を説き、あわせてその時点までに判明した四八点の近世相書の出版書目一覧を、和刻本も含めて掲げたことがあった。

しかし、その時は書肆名などの情報を載せる紙面の余裕がなく、またその後の調査によって訂正増補すべき点も生じたため、ここに改めて、近世期に刊行された相書の書目を、本屋仲間記録や出版広告にのみ書名が伝わる伝本未見のものと同合わせ、簡単な書誌情報を付して掲げることにした。

なお、対象は刊本に限定し、写本は一切掲げなかった。しばしば「秘

伝」「口授」を謳う観相学は、刊本よりも写本として伝えられることが多く、近世の観相資料の全体像を捉えるためには写本の調査が不可欠なところである。しかし、近世相書についての調査がこれまで皆無であった現状に鑑みれば、まずは研究の第一歩として、調査の及びやすい刊本の書目リストを作成することにも、少なからぬ意義があるうと考えられる。また、あえて刊本に限定することによって、師弟間の閉ざされた関係における「秘伝」「口授」の類ではなく、むしろ近世社会により広く流布していた観相の知識を理解する手掛かりになるとも考えられる。

とはいえ、刊本であっても公的機関の所蔵する相書の伝本は極めて少なく、版の異同や摺りの前後についての検討は、十分行えなかった。また、披見しえた中から可能な限り善本を選んで書誌情報を掲げたものの、多くは架蔵本に頼らざるをえず、明らかに後摺りと考えられるものでもあっても掲出せざるをえなかった憾みがある。それでも、本稿によって近世相書のおおまかな見取り図は得られると思われ、また、序跋執筆者の情報などから、当時観相に携わった人々の出自や師弟関係、交流関係を具体的に浮かび上がらせてゆくことも、今後期待できるはずである。

## 近世における相書の出版

中国の相書が、近世以前から日本に伝来していたことは、北宋時代の版本を日本で鎌倉時代に書写した『集七十二家相書』（称名寺所蔵、金沢文庫保管）が現存することから明らかである。また、近世日本の観相学に大きな影響を与えた『神相全編』の刊本も、国立国会図書館所蔵『商船船載書目』（文化元年成立、大庭脩『江戸時代における唐船持渡書の研究』関西大学東西学術研究所、一九八一年）によれば享保六年に輸

入されているが（なお、同書によれば、宝暦七年には『人相水鏡集』が輸入されている）、『神相全編』の和刻本が慶安四年に出版され、またそれを明らかに踏まえている『安倍晴明物語人相篇』が寛文二年に出版されていることからして、近世のごく初期に日本にもたらされていたことは間違いない。

古活字版の『人相経』を除けば、この『神相全編』和刻本と『安倍晴明物語』の二点が近世相書刊行の嚆矢であり、寛文十年刊『増補書籍目録』および同十一年山田市郎兵衛刊『増補書籍目録』の「曆占書」の項にも、この二点が掲げられている。その後、延宝三年毛利文八刊『古今書籍題林』の貞享二年「増補之分」に、ようやく『人相小鑑大全』が加わるものの、それから八十年近く相書の新刊は途絶える。

相書の刊行点数が一気に増えるのは、宝暦になってからである。宝暦以前に刊行されたのが、『人相経』を含めてもわずか四点であったのに対し、宝暦年間だけで五点もの相書が刊行されるのである。ここで参考までに、年代別の刊行点数を左に掲げてみよう。ただし、刊年不明のものには除き、また刊記がなく序跋年次を採ったものもある。

年代	点数	年間あたりの刊行点数
・宝暦以前	4	
・宝暦	6	〇・四六
・明和	4	〇・五
・安永	9	一・〇
・天明	4	〇・五
・寛政	3	〇・二五
・享和	4	一・三

・文化	7	〇・五
・文政	4	〇・二五
・天保	2	〇・一四
・弘化	2	〇・五
・嘉永	3	〇・五
・安政	1	〇・一六

近世中期から明治維新までを仮に、①宝暦〜天明、②寛政〜文政、③天保〜慶応という具合に約四十年ごとに三分してみると、相書の刊行点数はそれぞれ、①23点、②18点、③8点となる。宝暦から明和にかけて、堰を切ったかのように相書の刊行が相次いで安永期には早くもピークに達した後、享和・文化年間にいったんやや持ち直すものの、全体の傾向としては幕末にかけて漸減してゆく。つまり、相書刊行の最盛期は、近世中期にあった。

そして、この近世中期における相書の簇出の背景には、観相の三都への普及があったと考えられる。近世における観相の流行は享保頃に京都から始まったらしく、新山退甫『人相筆話』（明和元年刊）の南海陶山の序には、次のように述べられている。

本邦古昔、既に已に斯の術を言ふ者有り。爾後数百年間、或いは興り或いは絶え、隆替常ならず、寥々として星散し、多くは伝はらず。僅かに享保中に迄り、郭翁なる者、崎陽より来りて輦下に寓し、以て斯の術世に盛行す。（原漢文）

郭翁すなわち『本朝人相考』を仙掌齋に口授したことでも知られる観相家郭西（鶴塞）翁が、享保年間に長崎から上京して以降、本邦での流行が始まったというのである。その郭西翁に享保十五年に入門した中村白

翁が大坂堺筋周防町で観相の業を開いたのが、寛延三年（石田誠太郎『大阪人物誌』石田文庫、一九二七年、四六七頁）、すなわちまさに宝暦の直前であり、また同じく郭西翁の門人であった石龍子が、江戸で開業したのが安永年間であった（前述拙稿）。

出版業界において相書が一つの著述分野として意識されるのも、宝暦頃からであったらしい。宝暦四年永田調兵衛刊『新撰書籍目録』は、それまでの「暦占書」から家相鑑定と人相鑑定とを括り出す形で「相法」の項を設けている。ちなみに同書においては、先述の『神相全編』『安倍晴明物語』に加えて、新たに『相法秘訣』『人相水鏡集』の名が掲げられ、明和九年武村新兵衛刊『大增書籍目録』になると、さらに『柳莊相法』『麻衣神相』『同相法大全』『相法和解再板』『人相二面鏡』の五点が一挙に加えられ、和刻本、和解本、一枚摺と、相書のラインナップも次第に充実してくる。

かたや、天保以降に刊行点数が減少するのは、観相というものの性質上、大きな利益を生み出すほど独自色のある著作を次々と発表することが、もはや難しくなったからではないかと推測される。『神相全編』のような中国伝来の観相学に根ざすかぎり、いかに新味を加えたとしても先行著作との内容の重複は避けがたく、実際のところ、化政期までに企画自体はほぼ出尽くした感がある。

また、類板の恐れもリスクの一つとしてあった。たとえば、文政元年刊の柴田恒斎編『相学三書』は、大坂本屋仲間記録の文政六年五月付『開板御願書扣』によれば、当初著者柴田恒斎の私家版として開板したところ、敦賀屋九兵衛から類板の訴えがあったため、敦賀屋を売り弘めとして関与らせることで和解したという。敦賀屋九兵衛は、大雑書を始めとする暦占書刊行に実績のある老舗で、大半の相書に板元として名を

連ねており、嘉永四年刊の平澤白翁『人相千百年眼』刊行に際してもと同様の訴えを起している。すなわち、同書は当初、京都の越後屋治兵衛が板元となって開板したものの、やはり敦賀屋九兵衛に類板の訴えを起こされ、結局板木を敦賀屋に譲り渡すことになったのである。このように相書の刊行に参入しようとすれば、相書の板株を持つ敦賀屋九兵衛あたりから類板の訴えを受けるリスクが常に伴っていた。なお、相書の主な板元は、大坂の敦賀屋（松村）九兵衛、京の勝村治右衛門、梅村三郎兵衛、林権兵衛、江戸の須原屋茂兵衛である。

近世後期は、相書の刊行点数が減った反面、観相が三都以外にも広く浸透した時期でもあった。たとえば、農政学者として知られる大原幽学は、易や観相で生計を立てながら諸国を漂泊していたが、天保元年から八年の間に房総地方で、百二十七人分もの観相関係の神文（入門許可状）を発行している（松丸明弘「大原幽学と性学門人集団」『国立歴史民俗博物館研究報告』一一五集、二〇〇四年二月）。これに対して易術の神文発行数は三十九にすぎず、幽学に観相の教えを請う者の数は、易術のそれを大きく上回っていたのである。多摩地域でも、天保期頃から陶宮術（淘宮術）という観相学が流行したらしい（杉仁「多摩の在村文化——俳諧農民を中心に」『多摩のあゆみ』七一号、一九九三年五月）。こうした事実を、観相の術を学ぶ意欲を持った者が、農村部にも少なからず存在していたことを物語っている。そして、天保期以降に刊行された相書が、「早学」「独覧」「独稽古」といった具合に、速習や独習を謳う薄く小ぶりの簡便なマニュアル本中心であったのは、そうした新たな層の需要に応え、かつ前述のリスクを回避しながら、広く浅く安全確実に利益を回収しようとする、書肆の戦略のあらわれであったと考えられるのではないだろうか。

## 《近世日本観相書版本目録》

### 凡例

- 一、本稿は、近世の日本で刊行された相書（観相書）のリストである。ただし、大雑書は除外した。
- 一、配列は、刊年順とした。刊年は実物に見えるものに拠った。刊年不明の場合、序跋年次のうち最も新しい年次を採り、「序刊」「跋刊」などとした。実物から刊年が推定できない場合は記録類に拠り、「〓年刊カ」とした。刊年の推定がつかないものは、最後に一括した。
- 一、改行は「/」と表記したが、巻首や見返し、刊記、奥付など、配置の複雑なものではできずかぎりその配置が分かるように写し取った。
- 一、所蔵者は、閲覧しえた中の一箇所のみを挙げ、その他の所蔵者は必要に応じて【補記】に記した。
- 一、外題・内題は原則として全て記した。巻首題は、本文冒頭部分の編著者名や校訂者名などとともに、【巻首】に記した。複数冊ある場合は、原則として一冊目を採ったが、校訂者が異なるなど特記すべき場合は一々記した。
- 一、序跋文からは、序題、年次、執筆者等を抜書した。序題と年次・執筆者との間には「/」を入れた。訓点・振り仮名等は、一々記さなかった。
- 一、刊記は、その位置を（ ）内に記した。刊記のうち、特に奥付刊記については【奥付】として別項を設けた。
- 一、適宜、（ ）内に補足事項を記した。
- 一、該当事項の備わらない場合原則として省略したが、あえて「なし」

と記した場合もある。

一、【補記】には、三都の書林仲間記録などに当該本に関する記述があれば、必要に応じて簡潔に記した。その際、次に挙げる資料名は以下のように略記した。

京都書林仲間記録『板行御赦免書目』 京都

江戸書物問屋仲間記録『割印帳』 江戸

大坂本屋仲間記録『開板御願書扣』 大坂

同寛政二年改正『板木総目録株帳』 板株

同文化九年改正『板木総目録株帳』 板株（文化）

一、前記『板木総目録株帳』の原本に用いられているおもな略語は次の通り。相 〓 相板、支 〓 支配、丸 〓 丸株、敦九 〓 敦賀屋九兵衛、勝治 〓 勝村治右衛門、扇利 〓 扇屋利助、河嘉七 〓 河内屋嘉七、林権 〓 林屋権兵衛。なお、傍線は原本のまま、（ ）で示したものは、文化九年改正本で追加ないし書き換えられた記述、ミセケチで示したものは、同じく文化九年改正本で削除された記述を意味する。

一、特に断らないかぎり、体裁については匡郭あり、無界とし、本文については、和刻本は漢文、訓点あり、和書は漢字平仮名交じり文とする。

一、字体は、原則として通行の字体に改めた。

### ○和刻本の部

1 陳希夷伝・袁柳莊訂『神相全編』 慶安四年刊

【所蔵】 架蔵（安永七年以降印）。

【体裁】 大本三冊。縦二六・〇×横一八・五釐。二八十五五十四六丁。

【外題】「神相全編 上(中・下)」【柱題】「神相全編」

【巻首】「神相全編首巻(巻之三・巻之下)」

宋 希夷陳 搏 秘伝  
明 柳庄袁忠徹 訂正

【刊記】「慶安辛卯暮秋吉旦」(三冊目本文最終丁と同丁)

【広告】(刊記ウラ)

相書目録	梅村白玉房蔵板	
神相全編	柳莊相法	五冊
相法秘訣	麻衣相法大全	五冊
同水鏡集約篇	麻衣神相 未刻	二冊
同問難篇	人相婦女決	二冊
相法全書未刻	燕山神相 未刻	四冊
人相筆語	全本神相全編	十二冊
増刪百問未刻	相外別伝	二冊
相談 未刻	東都書林 <small>日本橋通老丁目</small> 須原屋茂兵衛 京師書林 <small>寺町松原下ル丁</small> 勝村治右衛門	

【補記】長沢規矩也著・長澤孝三編『和刻本漢籍分類目録』増補訂正版(汲古書院、二〇〇六年)によれば、後印本に①書肆不明本、②梅村三郎兵衛本、③梅村・須原屋茂兵衛連名本、④須原屋・勝村治右衛門連名本の四種が存在する。また、刊記に「慶安辛卯暮秋吉旦」書林中野氏は誰刊」とある一本も現存する(名古屋市鶴舞図書館本所蔵)。つまり、

本書の後印本は五種が確認されている。架蔵本は、広告に安永七年刊『麻衣相法大全』が載っていることからして、それ以降の後印本で、版面にはかすれや傷みがかかなり見られ、それまでに増刷を重ねたことが推測される。

## 2 右髻道人『相法水鏡集約篇』宝暦二年刊

【所蔵】架蔵。

【体裁】大本三冊。縦二六・七×横一八・二。二九+三四+二九・五丁。

【外題】「相法水鏡集 約篇 一(二・三)」

【目録題】「水鏡集約篇」【柱題】「人相水鏡集」

【見返し】

太璞道士訂本
水鏡集約篇
(刊語あり、左に別記)

※見返し刊語

「相法水鏡集全部四巻。曰約篇。曰弁難。曰別伝。曰百問。曰註解。都五篇。余嚮購得之。因問于一道士。道士目如不視。耳如不聽。有問莞爾曰。汝/刊焉。而公于天下。吾授汝以秘訣。輒開篋筒中出訂本一帙見示。於是/瞻写以上梓。今也約篇功已成。不勝歛躍。遂嚮四方。如後諸篇。不日而/終業。海内君子請察諸。浪華書肆称航堂主人涉川延常謹識」

【序】「叙/康熙庚申三月既望華/亭沈筌書於知非齋」

【巻首】「水鏡集約篇 右髻道人纂要」

【奥付】「宝曆二龍集壬申中夏

京都寺町五條

梅村三郎兵衛

大坂心齋橋筋

渋川清右衛門

同

松村九兵衛

【補記】大坂Ⅱ宝曆二年、人相水鏡集、四冊、作者右髻道人、板元敦賀屋九兵衛。江戸Ⅱ宝曆二年二月、相法水鏡集、全三冊、右髻作、板元大坂松村九兵衛、売出し須原や茂兵衛。板株Ⅱ「相敦九 京勝治 柏清」。

### 3 右髻道人『相法水鏡集 問難篇』宝曆六年刊

【所蔵】東北大学附属図書館狩野文庫。

【体裁】大本二冊。縦二七・〇×横一七・九糎。三二・三四・五丁。

【外題】「人相水鏡集 問難編 四（五）」

【目録題】「水鏡集問難編」【柱題】「人相水鏡集」

【巻首】「水鏡集

浙西右髻道人著」

【奥付】「宝曆六丙子年五月吉日

京都寺町五條

梅村三郎兵衛

大坂心齋橋筋

渋川清右衛門

大坂心齋橋筋

松村九兵衛

【補記】江戸Ⅱ宝曆六年初冬、人相水鏡集問難篇、全二冊、右髻道人、

板元大坂敦賀屋九兵衛、売出し須原や茂兵衛。

### 4 袁柳莊著・雲林子訂『柳莊相法』宝曆七年刊

【所蔵】架蔵。

【体裁】大本五冊。縦二六・八×横一八・一糎。三四・三一・二六・五十二・九・二七・五丁。

【外題】「柳莊相法 一（五）」

【目録題】【尾題】「新刻袁柳莊先生秘伝相法」【柱題】「柳莊相法」

【見返し】

雲林子訂定
柳庄相法
汎観堂蔵書

【序】「刻柳莊相法叙／／宝曆丙子十月望京都／駒寛書於汎観堂」

【巻首】「新刻袁柳莊先生秘伝相法卷之一

煙霞野叟 雲林子 校正」

【跋】「柳莊相書跋／／宝曆戊寅秋／九月朔因州田元端撰」

【奥付】「汎観堂開板

宝曆七丁丑年七月吉日

京都寺町五條

梅村三郎兵衛

大坂心齋橋筋

渋川清右衛門

同

松村九兵衛

【補記】大坂Ⅱ柳莊相法、二冊、点者京住田元端、板元敦賀屋九兵衛、宝曆七年八月出願。板株Ⅱ「相敦九 敦九 京勝治」。

5 陸位崇編『麻衣相法大全』 安永七年刊

【所藏】 架藏。

【体裁】 大本五冊。縦二五・八×横一七・八糎。四二一〇十一四十一六十三三・五丁。有界。

【外題】 「麻衣相法大全 一（一五）」

【柱題】 「増积人相編」【尾題】 「新刊合併評釈麻衣先生人相篇」

【序】 「相法大全叙」／安永戊戌孟冬 彦藩前文学伏水／龍公美譯書于平安第三橋燕子堂中」

【卷首】 「新刊校正増积合併麻衣先生人相編卷之一」

蘭谿 斗南 陸位崇 校編

金陵 益軒 唐 謙 繡梓」

【奥付】 「安永七戊戌十一月吉日

江戸書林 日本橋通壹町目  
須原屋茂兵衛

京都書林 寺町通松原下町  
勝村治右衛門」

6 陳希夷伝・袁柳莊訂・石龍子校『神相全編正義』 文化四年刊

【所藏】 架藏。

【体裁】 大本三冊。縦二五・七×横一八・〇糎。五三六十一五八・五丁。有界。

【外題】 「神相全編正義 上（中・下）」

【目錄題】【柱題】【尾題】 「神相全編正義」

【見返し】

宋 陳希夷先生秘伝	神相全編正義	東 石龍子法眼改誤
明 袁忠徹先生訂正		都 石孝安同校執筆
原本頗有錯簡 視人多費心眼 今去旧刊煩亂 為來者再開板		皇都 文徳堂 芸林堂

【序①】 「神相全編正義序」／維時文化改元甲子歲孟秋上浣／東都門人／一瓢菴種山石勇居士謹誌」

【序②】 「神相全編正義序」／時文化改元甲子冬至日／武州隱医／門人鈴木東安紀相親撰／法性本空居士庇需謹書」

【序③】 「自序」／時文化三乙丑年五月端午之天 東都雲台觀／石龍子法眼藤原相明謹撰

【凡例】 「文化改元甲子仲冬月 後学石孝安再拜頓首書」

【卷首】 「神相全編正義卷上 正觀堂訓点  
宋朝希夷陳罔南秘伝 明朝柳庄袁忠徹訂正  
本朝石龍子法眼改誤 石孝安同校執筆」

【奥書】 「原版慶安四辛卯歲暮秋吉且始成矣／再校文化三丙寅歲孟春良辰筆削終」

【跋①】 「神相全編正義跋」／時文化改元甲子歲仲冬朔旦／東都正觀堂／石孝安藤原相栄謹識」

【跋②】 「神相全編正義跋」／時文化二乙丑歲七月牛女佳会／紫琳台／南筑米府 岩邑石庭洞天居士慎書」

【奥付】 「文化四丁卯歲孟夏穀旦

東都書林

日本橋通り一丁目

須原屋茂兵衛

寺町通り松原下町

勝村治右衛門

京師書林

二條通御幸町西へ入

町田林兵衛

寺町通押小路角

町田与三吉

【補記】 江戸Ⅱ文化四年孟夏、板元京勝村治右衛門、売出し須原や茂兵衛。

7 趙蕤著・安積光角増補・柴田恒斎校『相学三書 察相篇』 文政元年刊

【所蔵】 東北大学附属図書館狩野文庫。

【体裁】 大本一冊。縦二五・七×横一七・五糎。二八丁。有界。

【外題】 「察相篇」【柱題】「尾題」 「察相篇」

【見返し】

安積光角先生増補 柴田恒斎先生校正	相学三書	文政紀元戊寅季冬 新鐫
		居易園蔵

【序①】 「恒斎相学三書序」／文政紀元戊寅臘月善庵居士朝川鼎／撰／星池泰其馨書／沖鶴年鐫」

【序②】 「序例」／文政改元戊寅季冬 柴田惟良識」

【巻首】 「察相篇

唐趙蕤著 日本 柴田恒斎 附案」

【補記】 大坂Ⅱ相学三書、三冊、売弘敦賀屋九兵衛、文政六年五月出願、同九月許可。文政六年五月付『開板願書扣』には、次のように記されている。「相学三書全部三冊、(中略) 右之書、江戸柴田恒斎与申者致板行候所、御当地鋳屋町敦賀屋九兵衛方ニ所持仕候人相之書ニ差構候類書ニ付、及懸合対法之上、右板行敦賀屋九兵衛方へ引取、此度売弘度段申出候ニ付、年行司立会相改候所、何方へも差構無之書ニ御座候間、売弘御免被為仰付可被下候様、宜敷被仰上可被下候以上」。つまり、敦賀屋九兵衛が本書を類板として訴えたため、敦賀屋を売り弘めとして板行を取り仕切らせることで和解したのである。

### ○和書の部

8 『人相経』 寛永頃刊

【所蔵】 北川本オンライン 画像 <http://homepages3.nifty.com/ninsokyo/04.html>。(原本未見)

【体裁】 横小本一冊。匡郭縦三寸七分半×横六寸五分(ただし、川瀬一馬『増補古活字版之研究』中巻へ日本古書籍商協会、一九六七年) 八七九頁記載の、小汀文庫本による)。一二丁。

【外題】 題簽なし。【柱題】「尾題」 「人相経」【巻首】 「人相経」

【補記】 無界。漢文。訓点なし。ほかに小汀文庫がある。該本は、『平成二十二年古典籍展観大入札会目録』(東京古典会、二〇一〇年) 一四六頁に記載の一本と同一のものと思われる。

9 浅井了意『安倍晴明物語 人相巻』 寛文二年刊

【所蔵】 架蔵(延享二年印)。

【体裁】 大本二冊合一冊。縦二五・三×横一八・〇糎。三八十一五丁。

【外題】 題簽はがれ。(ただし、早稲田大学附属図書館所蔵本は、巻下に「安倍晴明物語 人相之巻秘伝六」とある)。

【目録題】 「安倍晴明物語人相巻」

【柱題】 「人相」 【尾題】 「安倍晴明記人相巻」

【序】 「安倍晴明人相巻序」

【巻首】 「安倍晴明人相巻上」

【刊記】 (巻下本文最終丁ウラ)

「延享貳<sub>乙</sub>歳八月吉日

京都 京寺町通松原下ル町

書林 梅村三郎兵衛板」

※ただし、国立国会図書館新城文庫本(天文、日取、人相巻下の三冊のみ存)の巻下は、

「寛文貳<sub>壬寅</sub>年初春吉日

京極通誓願寺前

西村又左衛門刊行」

の刊記を持つ。また、早大本は架蔵本と同じ年記を持つものの、書肆名は、

「京都

書林 岡宇兵衛」

と訂正されている。

【補記】 『仮名草子集成』第一巻(東京堂出版、一九八〇年)に翻刻あり。『寛文十年刊書籍目録』『曆占書』の項に、「七 晴明記并人相伝 浅井松雲」として挙げられていることと、国会本の刊記とから、人相巻も寛文二年に刊行されたことは間違いない。

### 10 喜多村江南軒『人相小鑑大全』 貞享元年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本四巻一冊。縦二二・五×横一六・〇糎。六八丁。

【外題】 「人相小鑑大全」

【目録題】 「人相小鑑大全」【柱題】 【尾題】 「人相小鑑」

【序】 「人相小鑑大全序」／時而天和四<sub>甲子</sub>／孟春日難波散人書

【巻首】 「人相小鑑巻之一 并ニ一生善悪見様之事

喜多村氏江南軒述」

【刊記】 (本文最終丁と同丁)

「貞享元甲子歳仲秋上旬

大坂心齋橋南詰

書林 敦賀屋九兵衛板」

【補記】 板株Ⅱ「敦九」。

### 11 菅沼梅莊『相法秘訣』 宝暦元年刊

【所蔵】 京都大学附属総合図書館。

【体裁】 半紙本一冊。縦二二・五×横一五・五糎。三五・五丁。

【外題】 「相法秘訣 全」

【目録題】 【柱題】 【尾題】 「相法秘訣」

【序】 「相法秘訣序」／宝暦壬申夏四月書／于名土堂／皇都那波祐昌」

【巻首】 「相法秘訣

菅沼穀風 述

門人 住田元端校正」

【奥付】 「相法秘訣後篇 未刻

相法諺解 未刻

宝曆紀元辛未之冬

皇都書林

梅邨三良兵衛

藤沢三良兵衛

浪華書林

松村九兵衛

【補記】漢字片仮名交じり。江戸〓宝暦元年冬、板元京梅村三郎兵衛、売出し須原や茂兵衛。

### 12 嶋微長『人相二面鑑』 宝暦八年刊

伝本未見。

【補記】江戸〓人相二面鑑、折本一枚摺、作者潜林齋、板元売出し燕屋弥七。板株〓人相二面鑑折本 一 敦九。15『相児秘要』の奥付に照らせば、割印帳に作者として掲載されている潜林齋とは、嶋微長のこゝである。

### 13 朝元齋『人相常元起（人相十二宮解）』 宝暦十三年刊

【所蔵】 成田山仏教図書館。

【体裁】 大本一冊。二七・六×一九・〇糎。一〇丁。

【外題】 「人相常元起」（題簽に墨書）。東北大学附属図書館狩野文庫本は、後補表紙題簽に「人相十二宮解」と墨書し、見返しにも「大秘書／人相十二宮解」と墨書。

【奥書】 「宝暦十三癸未年七月 朝元齋」

【補記】 内題なし。認定書名は外題による。該本『人相常元起』と東北

大学附属図書館狩野文庫本『人相十二宮解』は、同板の別題本。匡郭無し。漢字片仮名交じり。振り仮名あり。朝元齋は、大野備中なる者の由、

成田山仏教図書館所蔵（相法伝）（写本一冊、請求番号〇三四一四九五）奥書の、「中興祖朝元齋大野備中門弟山田九翁齋伝栗原泥亀齋門人、文政九年丙戌正月築山秀亀齋」という記述からうかがえる。

### 14 新山退甫『人相筆話』 明和元年刊

【所蔵】 土佐山内家宝物資料館（国文学研究資料館所蔵マイクロフィルムによる）。

【体裁】 大本一冊。二六・七×一七・九糎。四一丁。

【外題】 「人相筆話」【柱題】 「人相筆話」

【見返し】

新山退甫道人著
客人 相筆話
浪速 天橋窟蔵版

【序①】 「叙／／明和改元之仲秋岡白駒撰」

【序②】 「韓客神相編序／／宝暦十四年甲申／四月穀旦南海陶山兔撰」

【序③】 「韓客神相編序／／明和元年甲申秋八月／平安 芥煥彦章撰」

【序④】 「門人林東菴相鑑筆話」

【巻首】 「人相筆話」

日本相士退甫道人 新山退著

門人

弟 千之 校  
内藤無角

【跋】 「韓人通論／／天橋窟主人退甫識」

【奥付】 「天橋窟蔵版」

明和改元甲申年秋八月

浪華 島之内心齋橋南江入 松村九兵衛

同 高麗橋壹丁目 浅野弥兵衛

【補記】 有界。漢文。訓点あり。振り仮名なし。大坂<sup>II</sup>作者新山退甫、板元敦賀屋九兵衛・藤屋弥兵衛、明和元年七月出願。明和元年八月付『開板御願書扣』には、「一人相筆話、去七月願出シ候処、朝鮮人之人相有之義指控可然由、惣年寄中より被仰聞」とあり、本書において朝鮮人の人相を掲げている点が問題視された。そして結局、「開板仕候義相止申度奉存候」とあるごとく、板行を見合すこととなった。しかし、江戸では明和九年に須原屋茂兵衛から売り出されている。江戸<sup>II</sup>明和九年六月、板元売出し須原屋茂兵衛。

15 嶋微長『相児秘要』明和三年刊

【所蔵】 国立国会図書館。

【体裁】 小本一冊。縦一五・六×横一一・二。二。二三・五丁。

【外題】 「相児秘要 全」

【序】 「相児秘要序／／明和丙戌夏六月／友人李蹊館題」

【巻首】 「相児秘要法」

【奥付】 「東武隠士」

潜林斎嶋微長撰

明和龍集丙戌秋八月

書林 江戸通油町 丸屋甚八梓

【補記】 板株<sup>II</sup>「敦九」。

16 久永通義『相法和解』（再販）明和五年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本二冊。縦二二・七×横一五・七。三六十三丁。

【外題】 「相法和解」（表紙中央上部に円形子持ち梓の刷り題簽）

【柱題】 「新刻相法和解」【尾題】 「相法和解」

【見返し】

由軒久永通義編
相法和解
明和戊子孟春 文海堂 文泉堂 梓寿

【序】 「相法和解序／／元禄辛未季夏甲子／由軒久永通義序識」

【凡例】 「相法和解凡例」

【巻首】 「相法和解卷之上」

【刊記】 （本文最終丁ウラ）

「明和五戊子年再板」

大坂心齋橋南壹丁目

松村九兵衛

京都問之町通御池上ル丁

林 権兵衛

京都東洞院通夷川上ル丁再板

林 九兵衛

【補記】 漢字片仮名交じり。江戸<sup>II</sup>明和五年、林九兵衛、前川六左衛門。

板株<sup>II</sup>「相 敦九 京林権（秋太）扇利 支河嘉七」。もう一つの架蔵

本（敦賀屋九兵衛・扇屋利助連名）の刊記には、「元録辛未年原刻／明

和戊子年再刻ノ文化癸酉年改正補刻」とあり、元禄四年に初版が刊行されたらしいが未見。前述の書籍目録などにも初版についての記載はない。

17 菅沼梅莊『相法婦女決』明和九年序刊

【所蔵】 国立国会図書館。

【体裁】 半紙本二冊合一冊。縦二二・七×横一六・〇糎。二一十二丁。

【外題】 なし。

【柱題】 「婦女決」

【尾題】 「相法婦女訣」(巻上)、「人相婦女決」(巻下)

【序】 「婦女決序」／明和壬辰春于正月／秦台岡鳳鳴撰

【巻首】 「相法婦女決巻之上(人相婦女決巻之下)」

菅沼梅莊述  
京師 男 俶風校補  
東都門人千葉龍卜校正

【刊記】 (本文最終丁ウラ)

「明和八卯霜月」

江戸日本橋通壹丁目  
須原屋茂兵衛  
京寺町通松原下ル町  
梅村三郎兵衛  
京東洞院通夷川上ル町  
林 九兵衛

【補記】 漢字片仮名交じり。江戸〓明和八年十一月、人相婦女訣、全三冊、菅沼梅莊作、板元京梅村三郎兵衛、売出し須原屋茂兵衛。該本の刊記、『割印帳』の記載とも明和八年だが、序文は同九年ゆえ、刊行年次は九年(〓安永元年)を採った。

18 郭西翁口授・仙掌齋撰『本朝人相考』安永二年刊

【所蔵】 明星大学人文学部日本文化学科。

【体裁】 中本三冊。縦一八・〇×横一二・四糎。四九十六三十四八丁。

【外題】 「本朝人相考 男部乾(坤)」、「本朝人相考 女部全」

【目録題】 【尾題】 「本朝人相考男相(女相之巻)」

【柱題】 「本朝人相考」

【見返し】

洛陽 郭西翁口授 東都 仙掌齋撰	不許翻刻 千里必究
<b>本朝人相考</b>	
全部 三冊	
浪華書肆	興文館 文海堂

【序】 「本朝人相考序」／安永癸巳冬十一月甲子／窪田氏撰

【巻首】 「本朝人相考」

【跋】 「人相考後序」／安永癸巳陽月甲子浪華／蘇氣子即書於 窪田子

／官舎

【広告】 (二冊目最終丁)

「彫刻出来類書目録」

柳莊相法 全部五冊  
人相水鏡集 全部五冊  
相法和解 かたかな 全部二冊  
人相小鑑 ひらかな 全部一冊  
日本人相鑑 ひらかな 全部一冊  
神 易 選 懐中本 全部一冊  
神道占ひ本 全部一冊  
さん木十二本添 全部一冊  
さん木 一枚摺懐中本  
三本添

【奥付】 (三冊目)

「本朝人相考後篇 東都 仙掌齋撰」

本朝小兒相法 同撰

明和九壬 辰年六月官許  
安永二癸巳年十一月彫刻

京都寺町通松原下ル町

梅村三良兵衛

書 江戸本石町三丁目十軒店

山崎金兵衛

林 大坂心齋橋南一町目

松村九兵衛

同 茨木町

渋川久蔵

【補記】 該本は取り合わせ本。大坂 〓 本朝人相考、二冊、作者仙掌齋、板元升屋彦太郎・敦賀屋九兵衛、明和九年六月出願、同八月許可。江戸 〓 安永二年十一月、板元大坂敦賀屋九兵衛、売出し山崎金兵衛。板株 〓 「敦九」。

### 19 柴且俔『相法言彦解』安永五年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本五冊。縦二二・四×横一五・四。三二・五+四九+三  
四十二+四十三〇丁。

【外題】 「相法言彦解 一 (五)」

【柱題】 「相法言彦解」

【序①】 「相法言彦解序 〓 安永四歲次乙未仲春日 〓 勢府独朗軒」

【序②】 「相法言彦解自序 〓 安永三甲午歲初冬日吉備之中州南瀾浪士  
応亨 〓 齋叟柴且俔自序」

【卷首】 「相法言彦解卷之一」

【刊記】 (本文最終丁ウラ)

「安永五年丙申正月吉日

江都書林 須原茂兵衛

摂陽書林 松村九兵衛

京都書林 林 九兵衛

同 林 権兵衛

同 赤井長兵衛

同 勝村治右衛門

【補記】 漢字片仮名交じり。江戸 〓 安永五年正月、板元京林九兵衛、売  
出し前川六左衛門。板株 〓 「相 敦九 京林権 勝治 菊長 (伊予善  
河吉)」。

### 20 松堂雪丸『田舎人相』安永六年刊

【所蔵】 カリフォルニア大学バークレー校三井文庫。

【体裁】 小本一冊。縦一五・四×横一〇・八。五〇・五丁。

【外題】 「田舎人相」(題簽に墨書)

【柱題】 なし

【序①】 「田舎人相叙

先師撰州住成章齋先生伝  
下谷住 松堂雪丸輯

〓 東武孱士 〓 隨風書 〓 安

永六丁 西林鐘 卯日」

【序②】 「自序 〓 安永三甲午文月訥齋におゐて毫をとることしかり 〓  
下溪主人 松堂雪丸識」

【奥付】 「訥齋雪鷹藏板

田舎人相後篇 近刻

(広告文省略)

安永六年丁酉仲夏

江戸本石町四丁目堀野仁兵衛齋

板株 〓 「相 敦九 京」。

【補記】

21 侯野景忠『相法示蒙解』安永六年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 小本一冊。縦一五・五×横一〇・六浬。

【外題】 「相法示蒙解」（題簽に墨書）

【柱題】 【尾題】 「相法示蒙解」

【見返し】

五嶽先生著	不許翻刻
相法示蒙解	
京師書房	合刻

【序①】 「相法示蒙解序」／時安永五年歲次丙申二月既望／寓鳳城湖南山人撰書

【序②】 「叙」／安永丙申之春／見住洛西華藏禪林竺彦撰

【附言】 「附言」／門人 梅亭主人巖郁誌

【卷首】 「相法示蒙解

五嶽先生口授門人 梅亭巖郁 松亭桂呂 全録

【奥付】 「安永六年」丁酉正月吉日

江都書林 須原茂兵衛

浪華書林 松村九兵衛

皇都書林 赤井長兵衛

同 林 権兵衛

同 勝村治右衛門

【補記】 漢字片仮名交じり。板株Ⅱ「相 敦九 京林権 勝治 菊長」。

『割印帳』に、安永六年正月、小本壹冊、五岳先生著、板元京林九兵衛、

売出し江戸須原屋茂兵衛として記載される『相法図象解』は本書を指すか。

22 陳希夷伝・袁柳莊校訂・石龍子校正『相法天中卷神心論』安永七年刊

【所蔵】 九州大学附属中央図書館。

【体裁】 大本二冊。縦二六・〇×横一八・一浬。一七十一四・五丁。

【外題】 「相法神心論 乾」（巻下「相法神心」以下題簽はがれ）

【目録題】 「相学発揮目録」（23『相学発揮』の目録が混入）

【柱題】 「神心論」【尾題】 「相法天中卷神心論」（巻上）「相法神心論」（巻下）

【序】 「相法神心論序」／翰林院学士。経筵講官。兼修国史錢塘倪岳書

【卷首】 「相法天中卷神心論巻上（巻下）

宋陳希夷先生秘伝 日本 法橋石龍子 校正

明袁柳庄先生校訂

【奥書】 「梅谿野田長勝 句読」（巻上）、「米藩 梅谿長勝句読」（巻下）

【跋】 「安永丁酉歲冬十一月法橋／石龍子識」

【奥付】 「安永七戌戌年六月

寺町通松原下町 梅村三郎兵衛

京都書林 間町通御池上町 権兵衛

浪花書林 心齋橋一丁目 松村九兵衛

東都書林 日本橋南三丁目 前川六左衛門

【補記】 漢文。訓点あり。振り仮名あり。江戸Ⅱ安永七年六月、相学発揮相

【補記】 漢文。訓点あり。振り仮名あり。江戸Ⅱ安永七年六月、相学発揮相

【補記】 漢文。訓点あり。振り仮名あり。江戸Ⅱ安永七年六月、相学発揮相

【補記】 漢文。訓点あり。振り仮名あり。江戸Ⅱ安永七年六月、相学発揮相

【補記】 漢文。訓点あり。振り仮名あり。江戸Ⅱ安永七年六月、相学発揮相

法神、全五冊、野梅谿選、陳希夷伝、板元前川六左衛門。板株Ⅱ  
心論「相法神心論五 相 敦九 京」。上記の『割印帳』『板木総目録株帳』の  
発揮記述を考慮するならば、本書は23『相学発揮』と合わせた五冊本として  
刊行されたと見るべきだろう。

23 野田元隆『相学発揮』安永七年刊

【所蔵】 国立国会図書館（享和二年修）。

【体裁】 大本三冊合一冊。縦二五・九×横一八・一糎。二九+三一+三  
〇・五丁。

【外題】 「相学発揮 地」（ただし成田山仏教図書館本（三冊本）は、  
「相学発揮 天（地・人）」）

【目録題】 【柱題】 【尾題】 「相学発揮」

【序①】 「相学発揮序／安永七歳次戊戌仲冬上澣／官医／隆菴法眼橋  
元周識／春山元以書」

【序②】 「相学発揮序／時安永丁酉仲／夏穀旦／久留米医官梅法野田  
長勝／書于雨々齋」

【要言】 「相法神心論要言五條

東都 処士 吉田素琴  
中林梅山 同述

【巻首】 「神心論相学発揮卷之一」

南筑米府医官 野田元隆長勝輯撰

「神心論相学発揮卷之三」

石籠子法眼 鑑定 米府 野田元隆長勝輯撰  
医官

【奥書】 「安永六丁酉年九月下澣功成／享和元辛酉年十一月再校正」（本  
文最終丁ウラ）

【奥付】 「安永七戊戌六月

享和二戌十月補刻

寺町松原下町 勝村治右衛門

京都書林 寺町二条下町 林 権兵衛

寺町綾小路下町 赤井長兵衛

浪花書林 心齋橋一町目 松村九兵衛

【補記】 漢字片仮名交じり。

24 『人相色新伝 手引草』安永八年刊

伝本未見

【補記】 江戸Ⅱ安永八年六月届出分、全式冊、作者伊藤、板元売出し山  
崎金兵衛。板株Ⅱ「人相手引草（小本）相 敦九 京勝治」。

25 鈴木了徳『相法摘要』安永八年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本三冊。縦二二・七×横一六・〇糎。六一+三〇+三五丁。

【外題】 「相法摘要 上（中・下）」（後補表紙題簽に墨書）

【目録題】 【柱題】 【尾題】 「相法摘要」

【見返し】

鈴木了徳著	不許 翻刻
相法摘要	全部 三冊
二無堂蔵版	

【序①】「相法摘要序／／安永己亥秋七月／浪華奥田元繼誌」

【序②】「相法摘要自序／／安永五年龍集丙申春三月望日／浪速鈴木定堅撰」

【凡例】「凡例／／了德識」

【卷首】「相法摘要卷之上」

浪華鈴木定堅了德著 男 定寛温卿校正

東湖 鈴木秀庸仲徳

浪華 戸田邦教十歳 筆受

【跋】「相法摘要後序／／時／安永八年己亥春三月／男 定寛謹識」

【刊記】「跋文最終丁ウラ」

「安永八年己亥九月」

京都 林 九兵衛

同 林 権兵衛

同 梅村三郎兵衛

書肆 同 山本平左衛門

江戸 須原 茂兵衛

大阪 松村 九兵衛

同 大野木市兵衛

【補記】有界。漢字片仮名交じり。江戸 天明元年八月、全六冊、鈴木了徳著、板元大坂大野木市兵衛、売出し須原屋茂兵衛。板株 敦

九 秋市 京林権 勝治 扇利 支河嘉七 (秋太)。

九 秋市 京林権 勝治 扇利 支河嘉七 (秋太)。

26 侯野景忠『相法類編』 天明元年刊

【所蔵】 国立国会図書館 (寛政七年再刻)。

【体裁】 大本三冊合一冊。縦二六・二×横一七・八糎。三一＋三七＋三

八・五丁。

【外題】「相法類編 再刻 上(中・下)」

【柱題】【尾題】「相法類編」

【見返し】

再刻	相法類編
書肆	文泉堂 白玉房 発兌

【序】「相法類編序／／安永十年辛丑花朝／平安 五嶽道人平景忠撰」

【附言】「門人江州草津蓮合寺性行全述」

【凡例】「門人 勢州山田天然就真 謹誌」

【卷首】「平安五嶽先生口授」

門人 勢州山田天然就真 校

門人 江州大津野村直英 校

勢州山田西村重邦 録

【奥書】「多部則恒」

門人 平安 橋本房高 謹識

本部修延

【奥付】「天明紀元之夏原刻」

寛政七年乙卯正月再刻

風鑑堂藏板

江戸 須原屋茂兵衛

大坂 敦賀屋九兵衛

京都 林 権兵衛

梅村三郎兵衛

【補記】 無界。漢字片仮名交じり。江戸 〓 天明元年夏、五岳先生、板元京梅村三郎兵衛、売出し山崎金兵衛。板株 〓 「相 敦九 京林権 勝治」。

27 菅沼梅莊『相法玉振録』 天明元年序刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 大本五冊。縦二六・五×横一八・〇。三十一・二四・三〇・三十三・五丁。

【外題】 はがれ（三冊目に打ち付け書きで「相法玉振録 三」とあり）

【目録題】 【柱題】 【尾題】 「相法玉振録」

【序①】 「安永辛丑春二月 〓 藤管文」

【序②】 「自叙 〓 安永庚子冬十二月 〓 平安紫龍道人梅莊菅沼穀風 〓 書於浪華旅寓時年七十」

【巻首】 「相法玉振録卷之一」

紫龍道人梅莊菅沼先生著

門人分修校訂姓名

平安

細辻 壽福 子叔

前川 中司 光轍

侍御医 法眼 生駒 元禎 光祥

安威 廷良 士顕

法橋 馬杉 恭 伯敬

瀧 豫 孟逸

木邨 有澄 恒十

矢代 富嵩 子保

法橋 宮崎 碩安 政辰

湖南大津 永田 正胤 晋子

讃州高松 画工 龜 載 厚伯

菅沼 義風 貢之

【跋】 「相法玉振録跋 〓 安永辛丑之歳仲春 〓 京兆西洞街一閑人前川光徹謹識」

【奥付】 「天明元年辛丑五月発行

京都寺町通松原下ル町 梅邨三郎兵衛

同 問之町通御池上ル町 林 権 兵衛

書肆 大坂心齋橋通 松村 九兵衛

同 南久太郎町北へ入 高橋 平 助

【補記】 漢文および漢字片仮名交じり。漢文は、訓点あり、振り仮名あり。板株 〓 「相 敦九 塩平 京勝治 林権（河直）」。

28 加藤疫角『相法秘蔵訣』 天明二年刊

【所蔵】 北野天満宮。

【体裁】 半紙本三冊。縦二二・八×横一六・一。二五・二一・三八・五丁。

【外題】 「相法秘蔵訣 一」（打ち付け書き）「題簽はがれ 二」 「相法秘蔵訣 三」

【目録題】 【柱題】 【尾題】 「相法秘蔵訣」

【柱題】 「相法秘蔵訣」

【見返し】

新刻	
孤月和尚閑 千里必究	不許翻刻
皇都 白玉房	文泉堂 発兌

- 【序①】「相法秘蔵訣序」／安永乙未冬至日／平安 登寿子膝隆白識」
- 【序②】「鑑相要訣」／加藤受伯順膳書」
- 【巻首】「相法秘蔵訣巻一」

孤月和尚門人 平安加藤受伯順述  
門人中為雄子強校」

【奥付】「天明二年壬寅正月

江戸 須原屋茂兵衛  
大坂 敦賀屋九兵衛  
書肆 林 権兵衛  
京都 梅村三郎兵衛

【補記】該本は、三冊目見返しに「天和甲辰 納主 林権兵衛」と墨書。  
板株Ⅱ「相法秘蔵訣ヤケ 三 相 敦九 京林権 勝治」。

29 水野南北『南北相法』 天明八年序刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本五冊。縦二一・八×横一五・二糎。四〇+三三+三三+四六+四四・五丁。

【外題】「南北相法 一 (二) (五)」

【目録題】【柱題】【尾題】「南北相法」

【見返し】

(広告文省略) 浪華書林積玉圃謹誌	
南北相法	全部五冊
元祖 聖徳太子 中祖 水野南北居士著	天保書院蔵

【凡例】「南北相法凡例」／維時天明八<sup>戊</sup>申仲春／予三十四才にて看相を相止隠遁を樂しむ／南北謹識」

【巻首】「南北相法巻之壹」

水野南北著 平山南嶽  
門人 水野八氣 校

【廣告】(本文最終丁ウラ)

「南北相法後篇五冊 同早引小本全壹冊」

【奥付】「『杜工部集』<sup>出刻</sup>以下十点的廣告省略」

唐本和本書画法帖売買所  
大阪本街心齋橋北へ入  
忠雅堂 赤志忠七版」

【補記】江戸Ⅱ寛政十一年三月、南北相法、全五冊、唐本翻刻、日本金鶏点、水野南北著、板元大坂扇屋利助、売出し須原屋茂兵衛。大坂Ⅱ作者吉野屋町鍵屋伊兵衛、板元扇屋利助寛政十一年十一月出願、同十二月許可。板株Ⅱ「相 扇利 敦九 支河嘉七 (河喜 河卯)」。

30 多田太洞『相法無尽蔵』 寛政四年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本五冊。縦二二・四×横一五・四糎。四三+二三+三三八+三三+四一丁。

【外題】「相法無尽蔵 一 (五)」

【目録題】【柱題】【尾題】「相法無尽蔵」

【見返し】

武田格翁先生秘授  
多田太洞先生著述

不許翻刻  
千里必究

### 相法無尽蔵

能化堂蔵版

【序①】「相法無尽蔵序／寛政壬子春三月穀旦／平安松典撰」

【序②】「相法無尽蔵自序／寛政壬子春三月癸丑／望日撰津多田至鍊  
希／真父書于平安能化堂」

【凡例】「比元齋長貞  
門人 柳坡齋温浩 謹述」

【卷首】「相法無尽蔵卷之一」

「相法無尽蔵卷之二 (卷之四・卷之五)」

格翁武田先生秘授

多田希真 述

門人 比元齋長貞  
蘆塚齋孟辰校

「相法無尽蔵卷之三」

格翁武田先生秘授

多田希真 述

門人 小松谷比元齋長貞  
真葛原蘆塚齋孟辰校

【奥書】「男 多田至元 述之」

【刊記】(五冊目38丁、一丁分)

「四方購求人須認此印

為記若無之者係偽刻

能化堂蔵版

寛政四年壬子仲夏吉日寿梓 (38才)

江戸日本橋通志町目

須原屋茂兵衛

大坂心齋橋南志町目

敦賀屋九兵衛

京都寺町二条下ル町

林権兵衛

同寺町綾小路下ル町

菊屋長兵衛

同寺町松原下ル町

勝村治右衛門

同醒井五条上ル町

伊予や佐右衛門 (38ウ)

### 肆

【廣告】(五冊目39丁、一丁分)「太洞先生著述書目／男女三十二相全

一冊小本出来 (廣告文省略、以下同)／相法無尽蔵 全部五冊出本／同

続編 全部五冊在刻／同後篇 全部五冊未刻／相学即席辨 小本一冊在

刻」

【跋】「平安 安仲通題」

【補記】漢字片仮名交じり。総振り仮名。江戸＝寛政四年仲夏、板元壳

出し須原屋茂兵衛。板株＝「相敦九 京 (伊予善)」。

### 31 『相法窺管』寛政十年刊力

伝本未見。

【補記】『京都書林行事上組諸証文標目』＝寛政十年三月、勝村治右衛

門。板株＝「四 相 敦九 京」。これによれば四冊本。

32 井田亀学『相学弁蒙』寛政十一年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本二冊。縦二二・三×横一五・二。四八・五十四・五丁。

【外題】 「相学弁蒙 乾（坤）」

【目録題】 【柱題】 【尾題】 「相学弁蒙」

【見返し】

井田亀学先生著 門人 加藤在将 重田如山 校	相学辨蒙	井田亀学先生著 門人 加藤在将 重田如山 校
------------------------------	------	------------------------------

【序①】 「相学弁蒙叙／／寛政丙辰冬十一月／新三位藤原貞直撰／高成信敬書」

【序②】 「相学弁蒙序／／寛政乙卯秋九月／松平 源 信雄 題／門人僧雪堂書」

【序③】 「相学弁蒙自序／／時／皇和寛政甲寅冬十一月／平安 井田亀学撰」

【序④】 「江武礫川門人 釈黙玄述」

【附言】 「附言／／寛政戊午春三月／潜龍堂 井田亀学長秀述」

【卷首】 「相学弁蒙卷之上」

潜龍堂 井田亀学先生著

門人 加藤在将

重田如山 校

【跋】 「跋／／寛政甲寅仲秋／赤城処士 長尾龍撰」

【奥付】 「井田亀学先生著述／／

相学弁蒙統編 全二冊

相学一覽 全一冊 嗣出

寛政十一年<sup>己未</sup>歳春三月発行

浪華書林 松村九兵衛

平安書林 勝村治右エ門

赤井長兵衛

林 権兵衛

江府書林 西村源 六

【補記】 有界。漢字片仮名交じり。江戸<sup>II</sup>寛政十一年三月、井田要人著、板元願人西村源六。板株<sup>II</sup>「相学便蒙 二 相 敦九 京 伊予善 河喜」。

33 有山本嵩『着衣相法』享和元年刊

【所蔵】 京都大学附属総合図書館

【体裁】 小本二冊。縦一五・五×横一一・一。二・三十一九丁。

【外題】 「男着衣相法 乾（坤）」

【柱題】 「衣相」

【序】 「序／／享和元年辛酉五月／中西剛」

【卷首】 「着衣相法乾」

撰陽 有山本嵩著

【刊記】 （本文最終丁ウラ）

「享和元年 辛酉 五月新刻」

二條寺町通 鉛屋安兵衛

平安 同 林 権兵衛

同 林 権兵衛

【補記】板株Ⅱ「海勘（扇利）」。

34 水野南北『南北相法後篇』 享和二年序刊

【所蔵】架蔵。

【体裁】半紙本五冊。縦二一・七×横一五・二糎。二八二〇+一八+二二+一八・五丁。

【外題】「南北相法 後篇 一（一五）」

【柱題】「尾題」「南北相法後篇」

【見返し】

元祖 聖徳太子	南北相法 全五冊 後篇	天保書院蔵
中祖 水野南北居士著		

【序】「自序／／享和壬戌十一月 南北撰」

【巻首】「南北相法後篇卷之壹

血色之部 水野南北居士」

【奥付】「〔杜工部集〕以下十点の広告省略」

唐本和本書画法帖売買所

大阪本街心齋橋北へ入

忠雅堂 赤志忠七版」

【補記】漢字片仮名交じり。総振り仮名。江戸Ⅱ文化四年五月、板元大坂扇屋利助、売出し前川六左衛門。大坂Ⅱ作者水野南北、蔵板主右同人、売弘扇屋利介、文化四年五月出願、同九月許可。板株Ⅱ「相 扇利 敦九 支河嘉七（河喜 河卯）」。

35 水野南北『南北相法早引』 享和三年刊

【所蔵】国立国会図書館。

【体裁】小本一冊。縦一五・七×横九・九糎。一〇七丁。

【外題】「相法早引 全」（題簽に墨書）

【目録題】「相法早引」【柱題】「南北相法 早引」

【尾題】「南北相法早引」

【序①】「南北相法早引序／／癸亥之秋 大藪国義士方撰」

【序②】「自叙」

【巻首】「南北相法早引

浪花 水野南北居士著  
南都門人 半田周造校」

【奥付】「述書出版目錄

南北相法前篇 五冊 骨格理論

同 後篇 五冊（広告文省略）

同 続編 未出

同 早引 一冊

享和三癸亥年」

【補記】漢字片仮名交じり。板株（文化）Ⅱ「相 河喜 河卯」。明治二十四年東崖堂刊『南北相法早見』は、本書の銅版摺改題再刻本。

36 南翁軒『相法秘受解』 享和二年序刊

【所蔵】架蔵。

【体裁】半紙本五冊。縦二二・一×横一五・五糎。二六+二九+二四+

二八+三八丁。

【外題】「相法秘受解 一（五）」

【柱題】「南翁軒相法」【尾題】「相法」

【序】「自序／于時／享和二年壬戌春三月／撰陽 南翁軒 謹序」

【卷首】「南翁軒相法天之卷」

【跋】「南翁軒相法跋／／時／享和壬戌維夏之日／南阿荒井公廉書于浪  
／華蝮屈軒中」

【広告】「浪華書林前川文栄堂藏版書目 心齋橋通北久宝寺町 河内屋源七郎／（一丁分、  
書目省略）／板元 心齋橋通北久宝寺町 河内屋源七郎」

【奥付】「 江戸芝神明前 岡田屋嘉七  
 同日本橋南壹丁目 須原屋茂兵衛  
 同 日本橋南貳丁目 山城屋佐兵衛  
 同中橋広小路 西宮弥兵衛  
 同浅草茅町二丁目 須原屋伊八  
 同芝神明前 和泉屋吉兵衛  
 京三條通御幸町 吉野屋仁兵衛  
 大坂心齋橋通北久宝寺町 河内屋源七郎 行」

三都

発行

書肆

大坂心齋橋通北久宝寺町 河内屋源七郎 行

【補記】 漢字片仮名交じり。板株Ⅱ「相 敦九 京 吉一扇利（支河嘉  
七）」。

37 蘆塚齋「手相即坐考」 文化三年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 中本一冊。縦一八・六×横一二・三。五九丁。

【外題】「手相即坐考」

【目録題】「手相即坐考」【柱題】「手相」

【卷首】「手相吉凶 皇都 蘆塚齋撰」

【刊記】（本文最終丁ウラ）  
「文化三年丙寅春

大	心齋橋筋島之内 文海堂敦賀屋	松村九兵衛
坂	高麗橋筋一丁目 星文堂藤屋	浅野弥兵衛
京	醒井通五條上 永寿軒伊予屋	巽左右衛門

【補記】 大坂Ⅱ板元敦賀屋九兵衛、文化二年二月出願、同三月許可。同  
株Ⅱ「敦九 藤弥 京（加善）」。41～53丁で、全身のほくろの吉凶を説く。

38 南龍齋「人相独歩行」 文化五年刊カ  
伝本未見。

【補記】 大坂Ⅱ人相独歩行、三冊、作者伏見桃山南龍齋、板元扇屋利助、  
文化五年三月出願、同七月許可。

39 児島好古『真相精通』 文化八年刊

【所蔵】 架蔵（巻七のみ）。

【体裁】 大本一冊。縦二六・一×横一八・六。二二三丁。

【外題】 はがれ 【柱題】 「真相精通」

【巻首】 「真相精通卷之七」

備中州 中山子児島信好古 著

出雲州 幡谷 渡邊篤泰民 校

【補記】 有界。漢字片仮名交じり。「連珠堂藏板」(柱刻)。深井紀夫編『正宗文庫所藏典籍分類目録 郷土関係編』(正宗文庫、一九九五年)によれば、本書は七卷五冊、文化八年八月刊、連珠堂・勝村治右衛門。正宗文庫本は未見。京都Ⅱ文化八年、作者中山、五冊。板株Ⅱ「相敦九扇利 京(支河嘉七)」。

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本四冊。縦二二・五×横一五・七糎。三七+三五+三三+三二丁。

【外題】 「相法修身録 一(一四)」

【柱題】 「南北相法極意」

【序】 「南北相法極意抜粹自序」／文化九壬申年／水野南北居士識

【巻首】 「南北相法修身録卷之二」(一冊目に巻首題無し。二冊目による)

【跋】 「南北相法極意抜粹跋」／文化壬申秋九月／湖南青霄小谷宗清謹

【奥付】 「水野 南北 藏 版」

文化十酉正月刻成

京寺町松原下ル町  
勝村治右衛門

三都書林

江戸東叡山池ノ端  
須原屋伊 八

大阪心斎橋南一丁目  
敦賀屋久兵衛

同中橋通瓦町  
扇子屋利 助

【補記】 大坂Ⅱ藏板主水野南北、売弘扇屋利助、文化十年十月出願、同閏十一月許可。板株(文化)Ⅱ「南北修身録 四 相 河嘉七 扇利 河喜」。

41 岩邑石庭『三教祖論異表伝』 文化十年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本一冊。縦二二・六×横一五・五糎。二四丁。

【外題】 「尾題」 「三教祖論異表伝」 【柱題】 「三教異表伝」

【序】 「三教祖論序」／文化癸酉夏五月／米府 梯隆恭撰

【巻首】 「三教祖論異表伝 南筑 岩邑石庭撰」

【題詩】 「壬申春 石孝安拜書」

【跋】 「跋」／維時文化九龍集壬申孟春中旬／筑紫米城 心光精舎 運

弁乘謹識

【刊記】 (跋文末終丁ウラ)

「文化辛未歲臘八日三教論成

同 癸酉歲九月朔上梓

南筑米府 紫琳台藏版

東都彫工 山口墨鷹謹刻

【補記】 有界。漢字片仮名交じり。

42 岩邑石庭『相学提要』文化十年刊

【所蔵】 架蔵。

【体裁】 半紙本一冊。縦二三・二×横一六・〇糎。三四丁。

【外題】 「相学提要 全」

【柱題】 「相学提要」(19丁まで)「提要拾遺」(20丁から)

【尾題】 「相学提要国字解」(19ウ)「相学提要病相拾遺」(31ウ)

【序①】 「相学提要序」／時文化壬申歳孟春上浣於南筑／米府紫琳台  
東都石孝安謹撰」

【序②】 「相学提要総論二章」

【序③】 「相法入門勉強歌」／洞天男巖泰橋拜書／文化癸酉歳七月申元日

【巻首】 「相学提要国字解 紫琳台蔵版

日本 南筑 同天巖邑石庭編輯

対州 巖谷遵孔美因解

門人 薩州 今井洞爐拾遺

南筑 酒井天寶病相 同校

「相学提要拾遺」(20オ)

【跋】 「相学提要跋」／文化壬申歳仲春日 酒井塊天寶謹識」

【賛詩】 「嵯峨巖遵拜題」

【刊記】 (賛詩のウラ)

「文化壬申歳仲春下浣提要解成

同 癸酉歳十一月望上梓

南筑米府 紫琳台蔵版

東都彫工 山口墨鷹謹刻」

【補記】 漢文。訓点有り。有界。20丁から別題が付いているが、丁数は一から三三まで通して付されている。

43 脇坂義堂『人相問答』文政五年刊カ

伝本未見。

【補記】 古典籍総合データベースⅡ「雲泉」(ただし現在所在不明の由)。

44 水野南北『南北相法極意拔萃』文政七年刊カ

伝本未見。

【補記】 大坂Ⅱ作者水野南北、蔵板主右同人、売弘扇屋利助、文政七年七月出願、同十二月許可。板株(文化)Ⅱ「一 支扇理」。これによれば一冊本。40『南北相法修身録』の序跋題に「南北相法極意拔粹」とあるため、古典籍総合目録データベースでは『極意拔萃』を『修身録』の別書名としているが、本屋仲間記録によれば、文化十年刊の四冊本『修身録』とは別に文政七年刊の一冊本『極意拔萃』が刊行されたこととなる。

45 皆川長善『極秘相法根元録』文政十一年跋刊

【所蔵】 弘前市立図書館。

【体裁】 半紙本二巻一冊。縦二三・一×横一六・〇糎。二二丁。

【外題】 「極秘相法根元録 全」

【目録題】 「尾題」 「極秘相法根元録」 【柱題】 「相法根元録」

【序】 「自序」／文政十年閏六月念有四日皆川／蔵人長善題」

【巻首】 「極秘相法根元録巻之上

男 皆川巽

弘前産  
東都 田龍皆川藏人長善著 門人 伊達駿河 校  
太田豊後

【跋】「跋／戊子仲夏尽／平安秋貫」

【刊記】なし。

【広告】「左国占解／開運家相明鏡指考／古今家相改正万年方位鑑／仙伝摩擦養生訓／葉熨深秘伝」(○・五丁。 広告文省略)

【補記】無界。 卷上＝漢文、訓点あり。 総振り仮名。 卷下＝漢字片仮名交じり。 総振り仮名。

#### 46 松本永年 人相指南童蒙訓 天保二年跋刊

【所蔵】千葉県立中央図書館。

【体裁】大本一冊。 縦二六・五×横一八・一糎。 七丁。

【外題】「人相指南第一元」【柱題】「人相指南」

【巻首】「人相指南童蒙訓 三易道人六書齋著」

【跋】「天保二年歳辛卯松本永年六十一(中略)六書齋／三易道人松本永年書篆」

【奥書】「三易道人松本永年年六十歳しるす」

#### 47 潜龍庵『人相早学』 天保十一年序刊

【所蔵】架蔵。

【体裁】中本一冊。 一八・一×二二・〇糎。 二三・五丁。

【外題】「人相早学 完」。

【目録題】「人相早学卷中」【柱題】「人相」

【序】「人相早学／東都 潜龍葺輯録／天保十一年庚子初春」

【広告①】(一丁)

「○人相早学 潜龍葺著 全一冊  
( 広告文省略、以下同 )

○人相早学 右同著 二篇

○手相早学 右同著 全一冊

○勸善相貌伝 潜龍葺著全一冊

春月吉辰 収文堂誌」

【広告②】(一丁)

「応仁武鑑／同統編／同残篇／同餘篇／永々武鑑／甲陽武鑑／小田原武鑑／同勇士一言」

【奥付】「掌中早引節用集 懐中本 薄様摺出来 全一冊  
( 広告文省略 )

江戸書林 日本橋通十軒店 播磨屋勝五郎板

#### 48 雲城故老伝・雲城辰二編『人相家相独談義』 弘化三年刊

【所蔵】架蔵。

【体裁】半紙本一冊。 縦二二・三×横一五・四糎。 一一・五丁。

【外題】「家相独談義 施印全」【柱題】「独談義」

【巻首】「人相家相独談義 施印  
家相独談義

南紀 雲城故老 遺辨  
同 雲城辰二 編輯」

【跋】「跋／丙午の春後さ月 花紅稿」

【奥付】「弘化三 丙 年初秋」

#### 49 系田川翁『人相独覧明鑑』 弘化四年刊

【所蔵】架蔵。

嘉永元戊申年再板

【体裁】 中本一冊。縦一七・四×横一一・八糎。一〇・五丁。  
【外題】 なし【柱題】 「人相明鑑」

【見返し】 「弘化丁未春新刻 糸田川翁著 人相明鑑 錦森堂上梓」(鏡  
の絵に散らし書き)

【序】 「弘化四丁 未年正月 糸田川翁識」

【奥書】 「東都布山景隠士 糸田川翁著」

【刊記】 (本文最終丁と同丁)

「弘化四丁 未年正月」

江戸馬喰町二丁目  
錦森堂 森屋次郎兵衛版

50 関根知之『人相指南秘伝集』 嘉永元年刊

【所蔵】 東北大学附属図書館狩野文庫。

【体裁】 中本一冊。縦一七・八×横一一・七糎。三〇・五丁。

【外題】 「人相指南秘伝集 全」(題簽に墨書)

【見返し】

関根知之先生撰著

人相指南秘伝集 全

東都 錦盛堂蔵梓

【序】 「相法秘伝／／嘉永二四月／／関流算術 人相墨色指南 関根八蔵知之」

【奥付】 「馬喰町二丁目 西村与八」

本所外手町

竹屋治郎吉

東都書肆

通二丁目  
総州屋与兵衛

51 潜龍庵『人相早学二編』 嘉永二年序刊

【所蔵】 架蔵(明治十九年印)。

【体裁】 中本一冊。縦一七・六×横一二・〇糎。二一・五丁。

【外題】 「人相早学 二篇」

【目録題】 「人相早学二編」【柱題】 「人相二編」

【序】 「人相早学二篇小序／／嘉永の二とせといふ年八月吉日／藤原梅彦しるす」

【巻首】 「人相早学二編」

東都 潜龍蒼著

【奥付】 「明治十九年十一月廿二日求版御届」

出版人

東京府土族 伊東武左衛門  
芝区桜田本郷町 東京府平民三番地

発兌人

吉野喜之助 春陽堂

売捌人

鶴声社

【補記】 該本は求板本であるが、初印本の所在は不明。

52 平沢白翁『人相千百年眼』 嘉永四年刊

【所蔵】 国立公文書館内閣文庫。

【体裁】 半紙本五冊。縦二二・三×横一五・八糎。三六十二二二二二+

一九二六・五丁。

【外題】 「人相千百年眼 一(五)」

【目録題】【柱題】【尾題】「人相千百年眼」

【見返し】

白翁平澤先生口授

人相千百年眼

浪華家元 樂只館藏

【序①】「人相千百年眼序／嘉永三年歲次庚戌仲冬／天師明經儒伏

原二位卿／凌陰清宣明／門下生源長利謹書」

【題歌】「平沢白翁かあらはし／たる人相千百年／眼を見て／正三位氏

興／山井正三位氏興卿」

【序②】「松陰主人後藤機」

【序③】「序／嘉永三年庚戌五月門人／秋田藤田幸保拝撰」

【卷首】「人相千百年眼卷之一」

大坂 平崎満之筆記

平澤白翁口授 門人 秋田 藤田幸保校正

京都 藤木 作 閱

「人相千百年眼卷之二」

大和 山村有章筆記

平澤白翁口授 門人 山城 杉山正房校正

出雲 山根邦貞 閱

「人相千百年眼卷之三」

出羽 田口安常筆記

平澤白翁口授 門人 大和 岡本義知校正

安芸 磯崎章因 閱

「人相千百年眼卷之四」

紀伊 笠松雪平筆記

平澤白翁口授 門人 出羽 松村好易校正

越後 小柳以礼 閱

「人相千百年眼卷之五」

江戸 荒井長弘筆記

平澤白翁口授 門人 京都 服部一校正

大阪 福岡觀光 閱

【跋①】「人相千百年眼跋／時嘉永庚戌春三月／秋田教授 奎齋西宮

先撰」

【跋②】「嘉永庚戌桂月／不肖平沢勝之謹録」

【廣告】「宅方明鑑／家相千百年眼／方位手鑑／人相千百年眼」(二丁、

廣告文等書名以外は省略)

【奥付】「官許嘉永四年辛亥五月

堀川通二條下ル

越後屋治兵衛」

【補記】 総振り仮名。該本表紙付箋「小技曲芸」。該本印記「番外書冊」

「新刊納本」(表紙)、「浅草文庫」(各冊1丁オ)。板株(文化) 〓「相

河喜 河喜 敦九」。嘉永五年閏二月五日付『開板御願書扣』には、本

書の開板人として敦賀屋九兵衛の名を記した上で、「右之書、板行京都

越後屋治兵衛与申者方之板行出来候処、差構有之候ニ付、以相对右板木

引取、則開板仕度段申出候ニ付、役中立会之上聞届ケ置申候事」として

いる。当初越後屋治兵衛が板元として開板したが、敦賀屋九兵衛が類板

の申し立てをし、結局敦賀屋が板木を引き取ることで和解したというの

である。

53 村上五雄『人相独稽古』 安政三年刊

【所蔵】 成田山仏教図書館。

【体裁】 半紙本二冊。縦二二・一×横一四・六糎。五二・五八丁。

【外題】 「人相独稽古 乾(坤)」

【目録題】 「人相独稽古」【柱題】 「人相」

【見返し】 安政三年丙辰発兌

東都書肆 金幸堂蔵
人相独稽古

【序】 「序／／安政丙辰仲春於江都玉池之／無仏精舎湖山迂人巻題」

【奥書】 「村上五雄校正／橋本玉蘭画図」

【奥付】 「永福丸

(広告文省略)

御免調合所 菊池肥後藤原真栄謹製

売弘所 馬喰町二丁目 菊屋幸三郎」

54 天山伝・安積光角補『先天相法内外伝』 刊年不明

【所蔵】 弘前市立図書館。

【体裁】 大本一冊。縦二五・九×横一七・三糎。三九丁。

【外題】 「先天相法 十冊」

【柱題】 「先天相法」【尾題】 「先天相法内外伝」

【巻首】 「先天相法内外伝

叡山 天山阿闍梨 伝 平安 安積光角増補  
江戸 柴田惟良校正」

【刊記】 なし

【補記】 有界。漢字片仮名交じり。

55 水野南北『人相因縁独歩行』 刊年不明

【所蔵】 住吉大社。

【体裁】 中本一冊。縦一七・三×横一二・四糎。二〇・五丁。

【外題】 「人相因縁独歩行 全」

【見返し】

水野南北居士著
人相因縁独歩行
書房 文政堂梓

【序①】 「人相因縁独歩行略序／／伏陽桃山／三省堂書」

【序②】 無署名

【奥書】 「三省堂／南龍謹書」

【跋】 「独歩行跋／／南北居士題」

【奥付】 「 寺町通五條上ル丁

発兌所 藤井佐兵衛」

56 『人相發明伝』 刊年不明

伝本未見。

【補記】 板株Ⅱ「(小本)相 敦九 京勝治」

57 『人相九面之図』 刊年不明

伝本未見。

【補記】 板株Ⅱ「折本相 敦九 京勝治 扇利 丸 支河嘉七」

- 58 『相法染指』 刊年不明  
伝本未見。
- 【補記】板株Ⅱ「一相 敦九 京」
- 59 『相外別伝』 刊年不明  
伝本未見。
- 【補記】1 『神相全編』安永七年頃広告「相外別伝 二冊」。
- 60 『日本人相鑑』 刊年不明  
伝本未見。
- 【補記】18 『本朝人相考』 広告「日本人相鑑 懷中本  
ひらかな 全部一冊」。
- 61 『男女三十二相』 刊年不明  
伝本未見。
- 【補記】30 『相法無尽蔵』 広告「男女三十二相 全一冊小本出来」。
- 62 『勸善相貌伝』 刊年不明  
伝本未見。
- 【補記】47 『人相早学』 広告「勸善相貌伝 潜龍菴著全一冊」。

